

上田 勉

気仙沼市—長期化する仮設生活 いまだ1万人仮住い（人口約6万8千人の約15%）

「気仙沼市で仮設住宅の入居開始から3年がたった。住宅再建事業がなかなか進まず、一関市を含む91団地で約2,800世帯・6,600人が生活。親せき宅などに暮らしている77世帯が、今も希望する団地への入居を待っている。民間アパートなどの「みなし仮設」を含めると、約1万人がいまだ仮の住まいのまま。住宅再建の本格化に伴う仮設住宅の集約化や、大規模な補修などが今後の課題となりそうだ。」

「応急仮設住宅は、市民会館に近い気仙沼公園で震災から約2カ月後の23年5月2日に入居を開始。その後、計3,504戸を整備したものの、用地の不足から全戸の入居は12月23日までずれ込んだ。」

気仙沼公園住宅で暮らす60歳代の男性は「不満を挙げたらきりが無いが、4世代が生活しており、足の踏み場もない状態。希望する災害公営住宅も予定通り完成するのかわりか心配。一日も早く公営住宅を作ってほしいのだが…」と語る。

3年が経過しても、災害公営住宅の完成はゼロ、防災集団移転による造成完了も1団地（6戸）と、住宅再建の本格化はこれから。このため、仮設入居者は最多だった3,155世帯・8,288人（24年1月18日）と比べ、362世帯（12%）・1,656人（21%）の減少にとどまる。」（阪神淡路大震災では、3年後の仮設住宅の入居者は約5割に半減）（「三陸新報」2014年5月7日付け）

仮設住宅の自治会活動 コミュニティはあって生活は安心、個人のプライバシーは？

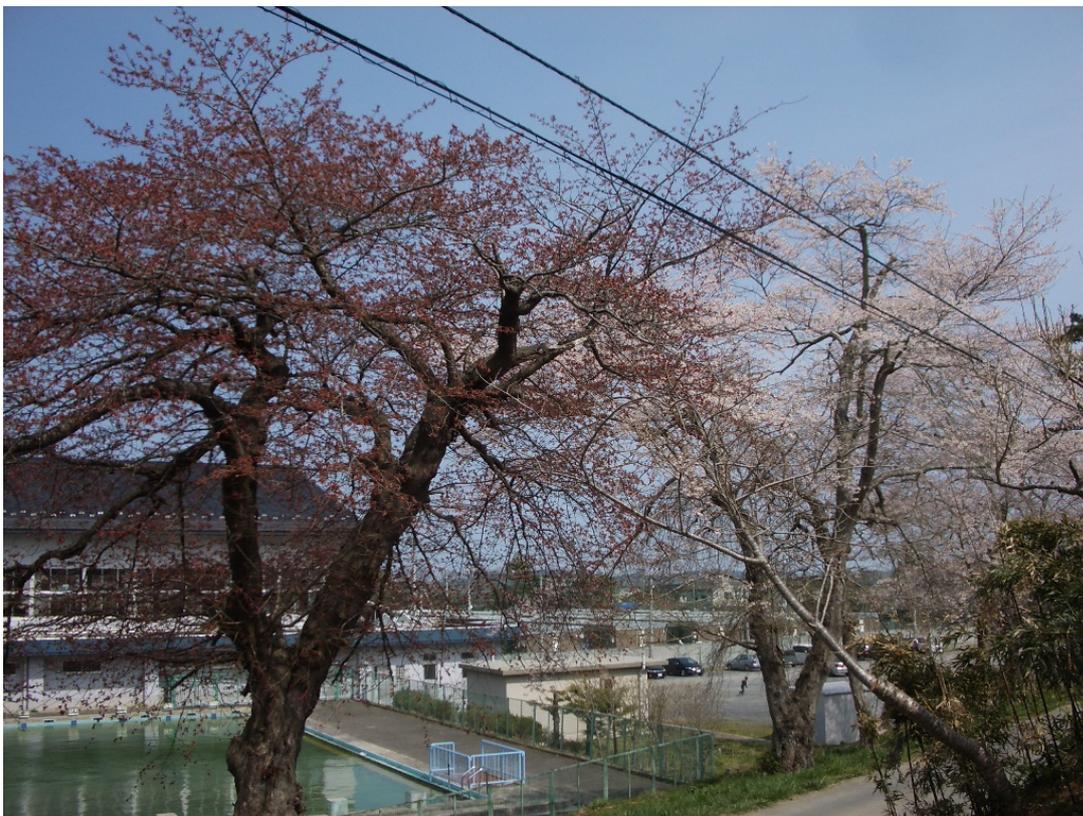
私が住んでいる階上中学校仮設住宅には、96戸中、被災者の方が約60世帯、応援職員が約30人です。3月29日に仮設住宅自治会の総会がありました。総会で、応援職員も自治会の会員になることが決まりました（会費は年間1,200円）。そして、役員の変更で、「監事には上田さんお願いします。」「異議無し！」と言うことになってしまいました。（委任状を出して、欠席すべきだった）

自治会主催の行事は、1月の新年会、春の花見会、夏祭り、秋のいも煮会等があります。また、環境整備（ごみ拾い）があります。これは、日曜日の朝6時集合です。夜型人間で目覚まし時計無しでは起きられない私にとって、環境整備は試練の時です。また、毎週金曜日の午前中は、お茶会があります。

昼間も被災者の方は家にいる人も多いので、仮設住宅に泥棒は入りません。安全です。万が一私の部屋に入った泥棒は、余りの家財の無さに同情して、反対に義援金を置いて行ってくれると思います。

コミュニティがあるということは、その反対に、個人のプライバシーは無いということです。私が、夜帰りが遅いこと、土日はほとんど家にはいないこと、家の中が散らかっていることは、周りには知られています。私はハタと気がつきました。私の部屋に、家族以外の女性を案内することはできない、ということに。（アリエナイ）

【仮設住宅にも春が、しかし被災者の人達にとって、本当の春（生活再建）はまだです】



【仮設住宅自治会主催の花見会—花より団子、花よりお酒】

